

科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成 24 年 5 月 15 日現在

機関番号：12603

研究種目：基盤研究（A）

研究期間：2008～2011

課題番号：20242011

研究課題名（和文）小、中、高、大の一貫する英語コミュニケーション能力の到達基準の策定とその検証

研究課題名（英文）Research into Development and Validation of English Language Proficiency Guidelines for Japanese Learners of English at Primary, Secondary, and Tertiary Education.

研究代表者

投野 由紀夫（TONO YUKIO）

東京外国語大学・大学院総合国際学研究院・教授

研究者番号：10211393

研究成果の概要（和文）：

小学校から大学までの一貫する英語コミュニケーション能力の到達基準として、世界的に影響を及ぼしつつある CEFR に準拠し、かつ日本の英語教育環境に適用する新しい基準 CEFR-J を提案した。英語を使って「～できる」という具体的なことばの機能を中心にした can do リストからなり、そのレベル別の can do リストの順序を科学的な調査方法で妥当性検証した結果を公開している。かつ、この CEFR-J を活用するための基礎資料（語彙表や包括的な can do リストのデータベース）なども同時に公開するべく整備をしている。

研究成果の概要（英文）：

In this project, we have proposed the CEFR-J, a new framework for showing attainment goals at different proficiency levels in English for Japanese learners. This is based on the CEFR, a language-independent framework used extensively around the world. The CEFR-J is unique in the sense that it has gone through validation research, in which the order of 'can do' descriptors was objectively examined. Also, there are some accompanying resources for the CEFR-J, including the CEFR-J Wordlist and the 'can do' descriptor database.

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合計
2008 年度	12,500,000	3,750,000	16,250,000
2009 年度	9,100,000	2,730,000	11,830,000
2010 年度	8,400,000	2,520,000	10,920,000
2011 年度	9,400,000	2,820,000	12,220,000
年度			
総計	39,400,000	11,820,000	51,220,000

研究分野：外国語教育

科研費の分科・細目：言語学・外国語教育

キーワード：①英語教育政策 ②到達度指標 ③CEFR ④小学校英語活動 ⑤小中高大連携
⑥第2言語習得研究 ⑦シラバス開発 ⑧習熟度調査

1. 研究開始当初の背景

日本の英語教育はなかなか成果が上がらない、という厳しい世論があり、データもア

ジア圏では日本の英語学習者の英語力は最下位に近いことが TOEIC, TOEFL の公開データでわかっている。それらの中で、「英語が

使える日本人」の育成のための戦略構想が平成14年に出され、中学卒業段階で英検3級、高等学校卒業時に英検準2級～2級程度、という指標が出されたが、その後の全国規模の調査では、中学3年卒業段階で3級を持っていると期待できるのは全体の3割程度であることがわかっている。その中で、小学校英語教育導入が議論され、小中高大の連携ということが盛んに言われるようになった。このような背景の中で、英語教育到達指標を学校教育や生涯教育を見据えて作成する必要性が高まってきた。

2. 研究の目的

本研究は、日本における「英語教育到達指標の新基準」の提案とその内容の実証的調査・検証を目的とする。信頼における到達目標が策定されるなら、学習者の意欲は増し、国・自治体・民間のレベルで標準的なカリキュラム、教授方法、教材を具体的に作成しやすくなる。さらに、国家政策としてナショナル・スタンダードを設定することで、それを基準に各学校が指標の具体化をしやすくなる。そうすれば、そこに到達するための、教授法改善や実証研究の促進、英語教育の国家政策を立てやすくなるであろう。本研究はその具体化と内容の精査を行うための英語教育学の中心的な研究者を集めた総合的な研究である。基盤研究(A) (課題番号16202010)で、小、中、高、大の各レベルでさまざまな資料を調査収集した。しかし、当初目的の具体的基準策定の骨子のみが固まった段階で終わりになり、「新基準」の提案のためにさらなる具体化が必要となった。本研究では、次の段階として、CEFR-J (試作品)をさらに精査して、これを基準にして学校教育各段階で教授者、学習者が到達すべき標準到達目標の具体的策定を目指した。またそのための妥当性検証の方法と具体例を提案し、グローバル化時代に活躍する個人、団体を支援する国のナショナル・スタンダード創設に向けた試みとする。

3. 研究の方法

研究は以下のような手順で行われた：

(1) CEFRの位置づけの確認

CEFRの本格導入を検討するため、プロジェクト名をCEFR-Jと命名、CEFRに準拠した枠組みを検討することで合意した。CEFRのレベルの細分化を科学的に行う、という目標を立てた。

(2) アルファ版の構築 (2008年度)

基盤研究(A) (課題番号16202010)の蓄積をもとに、スキル別のワーキンググループを作成、ディスクリプタの試作版をアルファ版と命名。

(3) 検証方法の検討 (2009年度)

Tony Green氏を招き、ディスクリプタ検証方法の勉強会を持ち、さらにアルファ版にコメントを複数の専門家から受け、ベータ版の作成に着手。同時に海外調査を実施。

(4) 中間報告書の発表 (2010年12月)

345ページ、およびベータ版の公開

(5) 大規模な検証フェーズの開始 (2010-11年度)

以下のプロジェクトを実施した：

① ベータ版の教員並べ替え調査

ベータ版を150名規模の小中高大の英語教員にランダムに配布し、難易度順に並べ替えさせる sorting exercise を実施。その順位相関を詳しく分析して、難易度の不安定な部分についてのデータを採取し、Version 1 確定作業への資料とした。

② 中高大の英語学習者による can do 調査

中高大5,468名(中学1,685名、高校2,538名、大学1,245名)の英語学習者に対するベータ版を用いた「can do 調査」を実施。その結果を項目応答理論により分析し、項目難易度を我々の作成したレベルと比較、Version 1で調整資料として活用した。

③ 学校パイロット

小中高大のモデルケースとして実際にベータ版を使用した活用事例を収集した。

④ 実際のスキルと can do 調査のギャップを見る実験研究

Can do で「できている」と思っていることと「実際にできるのか」の関係を見る実証研究をCEFR-JのA2, B1レベル5技能に関して研究グループを設けて調査を実施。かつその際に具体的な can do タスクを作成した。

以上の結果を受けて、ベータ版を改訂、Version 1として2012年3月に最終シンポジウムを行い、正式リリース。

4. 研究成果

(1) CEFR-Jとは

CEFR-JはCEFRの共通参照レベル(A1, A2, B1, B2, C1, C2)に準拠しながら、CEFRの理念の根幹である行動中心主義(action-oriented approach)を基礎とした can do ディスクリプタを日本人英語学習者用に準備したものである。その際に、日本人英語学習者のおよそ8割がAレベルであるという調査結果を参考に、5技能(spoken interaction, spoken production, listening, reading, writing)をpre-A1, A1.1, A1.2, A1.3, A2.1, A2.2, B1.1, B1.2, B2.1, B2.2, C1, C2の12段階に細分化している。CEFRを参考にそれぞれの技能ごとに代表的な can do ディスクリプタを独自に作成し、かつCEFRを参考に作成したディスクリプタの検証作業を大規模に実証的に行った。

(2) 妥当性検証の実施

最終年度にあたる 2011 年度は、小中高大の英語教員約 150 名を対象に行ったディスクリプタ並べ替え調査、および中高大 5,468 名(中学 1,685 名、高校 2,538 名、大学 1,245 名)の英語学習者に対する CEFR-J ベースの「can do 調査」とその結果の項目応答理論による分析を実施。これらの 2 つの検証作業の結果、CEFR-J ベータ版をさらに改善し、能力記述文の順序に関する補正を行った結果、CEFR-J Version 1 として 2012 年 3 月に正式公開をした。

(3) 実際のスキルとの差の実験

これらの検証作業と並行して、can do 調査の妥当性を調査するため「できると思っていることと実際にできるのか」の差を見るための実験を CEFR-J 主要 5 技能に関して実施した。その結果、can do 調査の妥当性が確認される結果が出た一方で、can do からタスク作成のプロセスで教員側にタスク・イメージの揺れが大きい項目や、生徒の側のイメージが教員のイメージとずれているような事例が観察された。これらを踏まえた、より具体的な can do ディスクリプタの内容を示す exemplar の重要性が指摘された。

(4) 学校パイロット

また規模は小さかったが、小中高大それぞれ 1~2 校において、CEFR-J アルファ&ベータ版を配布して、学校でどのような活用が可能かを、パイロット的に調査した。

(5) 活用資料の作成と専用 web サイトの構築
CEFR-J Version 1 の公開にあわせて、付属する活用資料の作成も行った。CEFR-J のレベルごとの学習語彙を示す “CEFR-J Wordlist” および CEFR-J を活用するための「Can do リスト データベース」である。これら補足資料を含めた一般公開のための専用の web サイト (<http://www.cefr-j.org>) を立ち上げた。

(6) 公開シンポジウムの開催

文科省の後援、ブリティッシュ・カウンシルと共催で 2012 年 3 月 9~10 日に「新しい英語能力到達度指標 CEFR-J 公開シンポジウム」と題して明治大学を会場に最終報告会を開催、約 200 名の参加者を得て盛会のうちに終わった。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計 37 件)

- ① 投野由紀夫 「コーパス言語学の英語教育への応用: CEFR を中心に」 JACET 中部支部紀要 第 9 号 pp.1-11. 2011 年、査読有
- ② 投野由紀夫 「CEFR 準拠の日本版英語到達指標の策定へ」 英語教育 10 月増刊

号、pp.60-63. 2010 年、査読無

- ③ Yasuo Nakatani 「Identifying Strategies that facilitate EFL learners' Oral Communication: A Classroom Study Using Multiple Data Collection Procedures」The Modern language Journal 94, i、pp.116-136. 2010 年、査読有
- ④ Yukio Tono 「The role of corpus linguistics in redefining SLA」*Current Issues in Linguistic Interfaces* 2 vols.、Volume 2、pp.499-513. 2009 年、査読有
- ⑤ 根岸雅史 「自然言語コーパスに基づく学習教材作成のための基礎的研究: 英語リスニング・テキストの CEFR レベルの決定要因とそれに基づくレベル推定の可能性」コーパスに基づく言語学教育研究報告 3 フィールド調査、言語コーパス、言語情報学 3 巻、pp.195-210. 2009 年、査読無
- ⑥ 根岸雅史 「オーセンティック・リスニング・テキストの CEFR リスニングのレベル判断における諸問題」*ARCLE REVIEW* 3 巻、pp.100-109. 2009 年、査読有

[学会発表] (計 130 件)

- ① Yukio Tono Linking CEFR to Learner Corpus Research: Identifying Criterial Features of L2 Development, *Corpus Linguistics in China* 2011, 2011 年 11 月 19 日, Beijing Foreign Studies University, China
- ② コーディネーター: 根岸 雅史、提案者: 投野 由紀夫、村野井 仁、高田 智子、「CEFR の日本の英語教育への適用: 検証と今後の課題 (課題研究フォーラム)」、全国英語教育学会山形研究大会、2011 年 8 月 21 日、山形大学
- ③ Masashi Negishi, Yukio Tono, & Yoshihito Fujita, A validation study of the CEFR levels of phrasal verbs in the English Profile Wordlists. *British Association of Applied Linguistics - Annual BAAL Conference*, 2010 年 9 月 11 日, King's College, London, UK
- ④ Yukio Tono Automatic extraction of L2 criterial lexico-grammatical features across pseudo-longitudinal learner, 2010 年 9 月 4 日, Reggio, Emilia, Italy
- ⑤ Yukio Tono Corpus-based dynamic wordlists for English language learning and teaching: a critical appraisal of the English Profile

Wordlists. TALC Organizing Committee
—9th Teaching and Language Corpora
(TALC) Conference, 2010年7月1
日, Masaryk University, Brno, Czech
Republic

- ⑥ Yukio Tono Corpus-Based Research and
its Implications for Second Language
Acquisition and English language
Teaching, LTTC Conference 2009, 2009
年3月7日, LTTC, Taipei, Taiwan.

[図書] (計 11 件)

- ① 小池生夫・寺内一・高田智子・松井順子・
財団法人国際ビジネスコミュニケーション協会、朝日出版社、『企業が求める
英語力』、2010年、168pp.
- ② Yukio Tono, John Benjamins Pub. Co.
Variability and invariability in
learner language: A corpus-based
approach. In Yuji Kawaguchi, Makoto
Minegishi, and Jacques Durand (eds.).
*Corpus Analysis and Variation in
Linguistics.* (pp.67-82.)、2009年
398pp.
- ③ 投野由紀夫(分担執筆)、松柏社 「教材
とコーパス」『コーパスと英語教育の接
点』(pp.1-19)(中村純作・堀田秀吾編
著)、2008年、231pp.

6. 研究組織

(1) 研究代表者

投野 由紀夫 (TONO YUKIO)
東京外国語大学・大学院総合国際学研究
院・教授
研究者番号: 10211393

(2) 研究分担者

相川 真佐夫 (AIKAWA MASAO)
京都外国語大学・外国語学部・准教授
研究者番号: 60290467

尾関 直子 (OZWKI NAOKO)
明治大学・国際日本学部・教授
研究者番号: 00259318

金森 強 (KANAMORI TSUYOSHI)
松山大学・人文学部・教授
研究者番号: 90204544

川成 美香 (KAWANARI MIKA)
明海大学・外国語学部・准教授
研究者番号: 60224804

笹島 茂 (SASAJIMA SHIGERU)
埼玉医科大学・医学部・教授
研究者番号: 80301464

椎名 紀久子 (SHIINA KIKUKO)
千葉大学・言語教育センター・教授
研究者番号: 40261888

高田 智子 (TAKADA TOMOKO)
明海大学・外国語学部・准教授
研究者番号: 20517594

高橋 美由紀 (TAKAHASHI MIYUKI)
愛知教育大学・教育学部・教授
研究者番号: 30301617

寺内 一 (TERAUCHI HAJIME)
高千穂大学・商学部・教授
研究者番号: 50307146

中谷 安男 (NAKATANI YASUO)
東京理科大学・経営学部・教授
研究者番号: 90290626

中野 美知子 (NAKANO MICHIKO)
早稲田大学・総合科学学術院・教授
研究者番号: 70148229

根岸 雅史 (NEGISHI MASASHI)
東京外国語大学・大学院総合国際学研究
院・教授
研究者番号: 50189362

松井 順子 (MATSUI JUNKO)
明海大学・外国語学部・准教授
研究者番号: 00275819

緑川 日出子 (MIDORIKAWA HIDEKO)
昭和女子大学・人間文化学部・講師
研究者番号: 10245899

村野井 仁 (MURANOI HITOSHI)
東北学院大学・文学部・教授
研究者番号: 20275598